

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 235 号 会 報 2019 年 5 月 17 日

目	次
会長挨拶 大村善治	… 1
副会長就任のごあいさつ 山本衛	… 3
第 30 期役員選挙の結果	… 4
第 29 期臨時運営委員会報告	… 5
第 29 期第 9 回運営委員会報告	… 6
第 30 期第 1 回運営委員会報告	… 8
第 145 回総会開催のお知らせ	… 10
学会費納入についてのお知らせ	… 10
2019 年秋学会および特別セッション 募集のお知らせ	… 10
国際学術交流報告	
若手派遣報告 高橋透	… 11
研究集会補助報告 佐藤薫	… 12
分科会報告	
Conductivity Anomaly (CA) 研究会	… 14
中間圏・熱圏・電離圏研究会	… 15
内部磁気圏分科会	… 16
地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会	… 16
波動分科会	… 17
「若手アウトリーチ活動 STEPLE」 平成 30 年度活動報告 高見康介	… 19
第 27 回衛星設計コンテストのお知らせ	… 20
助成公募	
2019 年度前期助成公募のご案内 公益財団法人 宇宙科学振興会	… 20
学会賞・国際交流事業関係 年間スケジュール	… 21
SGEPSS カレンダー	… 21
賛助会員リスト	… 22

会長挨拶

第 30 期会長 大村善治

平成 31 年 4 月 1 日からの 2 年間、第 30 期会長を務めさせていただくことになりました京都大学の 大村善治です。年号が平成から令和に変わる記念すべき年度に学会の舵取りをさせて頂くことを光栄に思うと同時に、心新たに新運営委員、新評議員の皆様と共に学会の発展に貢献すべく努力したいと存じます。

まずは本学会の歴史を振り返りつつ、今期の学会活動として何を指針とすべきかについて考えたいと思います。本学会は「日本地球電気磁気学会」

の名で 1947 年 5 月に発足しました。初代会長（当時は委員長と呼ばれていた）として長谷川万吉が 1947 年から 1960 年の 14 年間務め、学会の会則・役員制度を整備するとともに、1961 年からの 2 年間毎に第 1 期、2 期、と評議員と運営委員が任命され学会の運営がなされてきています。先日、西田篤弘会員から学会創立当時の写真を送って頂きました。1948 年に柿岡地磁気観測所で開催された第 3 回講演会の時の写真で、長谷川万吉（京大理・初代会長）、田中館愛橘（当時 91 歳）、永田武（東大理・第 1 期会長）の 3 人の学会創設期に活躍された先生方が中央に左から順に並んでおられます。



日本地球電気磁気学会創立記念祝賀会(1948年6月6日)

これら3人の名前を冠した学会賞として田中館賞と長谷川・永田賞が設けられています。本学会は、1987年にその名称を「日本地球電気磁気学会」から「地球電磁気・地球惑星圏学会」(SGEPSS: Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences)へ改称しています。この改称の背景には、学問の領域が宇宙空間(Space)、惑星(Planets)へと広がると同時に、従来の地球電磁気学の充実した発展があり、そのような広い研究分野を表す学会名称として、「・」のついた日本語名称と長い英語の名称が出来上がりました。1986年に福岡で開催された総会では新しい学会名について非常に活発な討論をした後に決議されました。

この学会名称変更の流れは、当学会が1949年から出版してきた学術誌であるJournal of Geomagnetism and Geoelectricity(JGG)の名称をEarth, Planets and Spaceに変更する動きへとつながってゆきました。1998年からJGG誌はEPS誌へと変わりましたが、この際にも“Space”というキーワードを入れるのに多くの人が知恵を

出しました。1990年頃から合同学会の開催、学会連合の動きが活発になり、2005年の秋には日本地球惑星科学連合(JpGU: Japan Geoscience Union)が誕生しました。2014年からは、このJpGUから地球惑星科学の各分野のレビュー論文を発行することを主目的とした学術誌Progress in Earth and Planetary Scienceが創刊されました。EPSとPEPSとよく似たような雑誌名が並び、どちらに一般論文を投稿するべきか迷われる人もおられるかもしれませんが、PEPS誌はJpGUに参加している50学会からなる地球惑星科学の各分野および学際的な分野のレビュー論文の出版が主目的の学術誌であり、一方、EPS誌はSGEPSS、日本地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本惑星科学会の5学会の協力のもとに発行されており、一般論文およびレターの出版を目的とした学術誌です。特に誌名に、“Earth, Planets”に加えて“Space”を含んでいます。この3つのキーワードで代表される研究分野の一般論文の出版と、本学会関連の研究プロジェクトや研究集会の特集号として利用するのに適しています。また、研究成果

の出版は学会活動の重要な機能であり、本学会は EPS 誌の運営のために人的にも経済的にも相当の負担をしています。会員の皆様には、一般論文の投稿と特集号の企画は EPS 誌へ、それらの論文を引用したレビュー論文は PEPS 誌へという方針で投稿して頂きたいと思っております。昨年度は、EPS 誌も PEPS 誌もそれぞれ科研費（研究成果公開促進費）を申請しましたが、認められませんでした。今年度は、EPS 誌と PEPS 誌とが連携して国際情報発信強化することで相乗効果を図るという主旨で申請することにより、幸いにも今後 5 年間の予算が認められました。この 5 年間に、将来的に補助金がなくなることを前提に、EPS 誌と PEPS 誌の将来の関係と運営方法について他の学会と一緒に検討してゆくことが課題の一つです。

学会名称の変更をおこなってから 10 年後（私が運営委員を務めて本学会のホームページとなるウェブサイトの作成を担当していた頃）には、学会ロゴのデザインを公募し、5 つの案の中から現在のロゴが選定されました。会報 155 号（1996 年 11 月 20 日）で、それが発表されています。本学会の研究領域を象徴する非常にデザイン性の高いロゴが出来上がりホームページを飾ることができました。私自身はホームページ担当として、会員の電子メールのアドレスをメール送信により自動登録する機能や、電子掲示板（SGEPSS Bulletin Board: sgepssbb）やフォーラムといった現在の SNS の原型のような機能を、HTML や Perl を使ってウェブサイトを実装することに苦心していました。その後、ウェブサイトの管理体制も変化し、コンテンツも増えて、会員が利用するウェブサイトとしては充実した内容になってきています。さらに、今期では会員管理と秋学会投稿システムを連携させた新しい機能をもつシステムの導入も検討しています。一方、会員外の人々に情報発信するということを目標に掲げると、現状のホームページでは充分ではなく、アウトリーチのためのコンテンツの充実、英語版ページの作成等、改善するべき点が多く見受けられます。昨年度は、会員の皆様の協力を得て、「地球電磁気学・地球惑星圏科学の現状と将来 - 2018 年版」が作成されホームページで公開されています。しかし、この内容はやはり専門家向けであり、小中学生や高校生が使う教材としては難しすぎる内容になっています。例えば、この資料で使われている図面の一部を一般向けに理解しやすくかつ魅力的な図面に書き換えて

ホームページで公表する等は直ぐに思いつくことですが、この他にも会員の皆様の中からアイデア、技術的な助言を募って、一般の人への広報を目的として、ホームページ・ウェブサイトの整備・拡充の作業を行うことを運営委員会で検討してゆきたいと思っております。

第 20 期の松本紘会長の提案で分科会が立ち上がり、学会活動の活性化が図られました。現在では 12 の分科会が活動を行っており、学会の会期中も昼食の時間をつかって会合がもたれています。私自身も複数の分科会に入っておりますが、所属している分科会が同時に開催されることもあり、実際にどちらに出席すべきか迷うこともあります。分科会が細分化しすぎて研究領域や対象も重複する部分が出てきているように見えます。学会に参加しても、パラレルセッションの一つやそのセッションに関連する分科会に出席するだけで、自分の専門分野外の研究や人との交流をせずに学会の全日程が終わってしまう会員もいるのではないかと懸念します。自分の研究分野を広げて異分野間の交流を促進するのも学会の重要な役割だと思います。そのためにも各分科会の統廃合も含めた見直しが必要であると感じています。各分科会の幹事が集まり、相互に情報交換、共有を図り、異分野間の交流を促進する一方、各分科会で議論され練られた研究計画を相互に紹介し、それを本学会の総意として学術会議や他の学会に情報発信することのできる仕組みも必要です。これらの点について具体的な方法を検討する作業部会を運営委員会の中に立ち上げたいと考えています。

以上、第 30 期で取り組みたい三つの課題について提案させて頂きましたが、会員の皆様の御助言のもと、軌道修正しながらも学会活動の活性化と学会を通じた人と人との交流を促進してゆきたいと願っております。宜しく申し上げます。

副会長就任のごあいさつ

山本衛

このたび第 30 期の副会長に選出されました、山本衛でございます。本学会を代表する立場に立つとは想像しておりませんでしたので、選出されたことのご連絡には驚きました。とはいえ、今までお世話になってきた本学会の皆様からのご支持の結

果でございます。微力ながら、ご期待に応えていきたいと存じます。よろしく願いいたします。

私は大学4年生の時に加藤進先生の研究室に所属したことから、レーダーを用いた大気研究の世界に触れることとなりました。ちょうどその年がMUレーダー建設の初年度で、完成が修士課程2年生に当たります。卒論・修論のテーマが京都大学流星レーダーによる大気重力波の研究で、博士課程では完成したMUレーダーによる中間圏観測からの大気重力波の解析をさせていただきました。当時の私には良くわからなかったのですが、これは幸運にも、研究グループが飛躍的な発展を遂げる瞬間への参加でした。その後は助手としてMUレーダーの運用と全国共同利用にかかわり始め、現在まで研究キャリアを積んで参りました。

私自身の限られた経験からですが、研究の発展は異なる分野の出会い（融合や相乗効果）によることが多いように思います。上記のMUレーダーについても、無線通信工学の応用であるレーダーが大気物理学の解明に利用されたことで大きな成功が生まれました。一方、私のキャリアの中では、助手に採用されたあとで、研究テーマを中間圏の大気波動から下部電離圏のイレギュラリティにシフトしました。学会の発表セッションや研究グループが少し変わるのでありますが、同時に研究者の顔ぶれが大きく異なることに驚きました。自分としては、研究対象の大気高度が数十km上がりプラズマの効果が少し追加されるという、ほんの隣のテーマに移っただけなのに、大きなギャップが存在したのです。しかしながら、その後に大気の物理的な上下結合への理解が深まって行き、現在では中間圏から電離圏の研究はほぼ一体化しています。これは、研究の発展の一例であったと存じます。

学会の目的は、研究成果の発表と議論の場を提供することが最も大きなところでしょう。本学会は、会員数は大きくはありませんが、カバーする研究分野が非常に広いところが特徴です。私の経歴においても、研究のテーマや手法の変遷はあったものの、本学会に所属する方々との交流が常に主でありました。大きな感謝を感じるとともに、今回、副会長にご選出いただいたことは、学会に恩返しせよとの意味と理解しています。本学会が活発な議論の場として機能しつづけ、学会員の皆様が研究領域を切り開く助けとなるように努力します。私のこれまでの学会とのかかわりですが、

第22～26期には5期連続で運営委員を務め、運営に関わっておりました。その後の第27～29期は評議員であって現場から少し離れておりました。今度は副会長として、まず学会の現状を教わるところから始めて参ります。以上、簡単ですがごあいさつとさせていただきます。

第30期役員選挙の結果

第30期役員選挙は、2019年1月25日に締め切れ、1月28日に開票されました。その後、大村善治新会長を中心とした運営委員の会長枠の検討の結果、以下のように確定しましたのでお知らせします。

=== 選挙結果 ===

副会長 開票結果（投票総数 173）

氏名	得票数	
山本 衛	39	当選
小原隆博	31	次点
中村卓司	30	
塩川和夫	23	

（以下は、6票以下）

評議員 開票結果（投票総数 173）

順位	氏名	得票数	
1	中村正人	121	当選
2	山崎俊嗣	115	当選
2	塩川和夫	115	当選
	藤井良一	103	（辞退）
	山本 衛	97	副会長に就任
4	中村卓司	95	当選
5	歌田久司	93	当選
6	家森俊彦	89	当選
6	津田敏隆	89	当選
8	小原隆博	85	当選
9	石井 守	34	当選
10	綱川秀夫	20	次点
11	齋藤義文	17	
12	田口 聡	15	

（以下は、11票以下）

以上の9名に、渡部重十 第29期会長を加えた10名が第30期評議員になります。

なお、評議員の選出について、内規第2条2で、

「(前略) 得票数の順位に従って上位 9 名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。」と定められています。

運営委員 開票結果 (投票総数 174)

順位	氏名	得票数	
1	吉村 令慧	145	当選
2	加藤 雄人	144	当選
2	津川 卓也	144	当選
4	三好 由純	142	当選
5	海老原 祐輔	136	当選
6	臼井 洋一	135	当選
7	佐藤 光輝	133	当選
8	大矢 浩代	123	当選
8	浅村 和史	123	当選
8	山本 裕二	123	当選
8	天野 孝伸	123	当選
12	松島 政貴	122	当選
13	行松 彰	114	当選
14	坂中 伸也	109	会長枠
15	橋本 久美子	107	会長枠
16	阿部 修司	98	会長枠

(以下は、4 票以下)

運営委員の選出について、内規第 2 条 3 で、「(前略) 合計得票数の順位に従って上位 13 名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数 16 名の残り 3 名を選出する。」と定められており、内規に従って「会長枠」の 3 名が選出されました。

(第 29 期運営委員・総務 加藤雄人)

第 29 期臨時運営委員会議事報告

日時：2019 年 2 月 14 日 (木) 10:00-12:07

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者 (総数 18 名、定足数 11 名)：渡部重十 (会長)、大村善治 (副会長)、天野孝伸、海老原祐輔、大塚雄一、加藤雄人、齋藤義文、佐藤光輝、

田口聡、津川卓也、橋本久美子、馬場聖至、松清修一、松島政貴、吉村令慧

欠席者：堤雅基、中村教博、山本裕二

議事：

01. 国際学術交流事業の審査 (助成担当)

国際学術交流外国人招聘に 2 件、国際学術研究集会補助に 1 件の応募があった。審議の結果、すべて採択することとした。

02. 男女共同参画関連 (男女共同参画担当)

「大学等高等教育機関の入学試験に対する声明文」への賛同の可否、および「研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望書」への賛同の可否が審議された。SGEPSS として修正・要望を指摘したうえで賛成することとした。

03. 会計関連 (会計担当)

3 年以上会費を滞納している長期未納会員 20 名に対して運営委員が個別に対応する。

04. JpGU ユニオンセッションへの対応について (JpGU プログラム委員)

JpGU の将来に向けた意見と提言の募集に対して会員のコメントが紹介された。JpGU U-08 セッション「日本地球惑星科学連合の将来に向けた大会参加者からの意見と提言」のコンビーナによれば、JpGU への意見・提言が残るように予稿に書くことが要請されている。会長・JpGU 担当・運営委員によって予稿案を準備する。内容としては大きく分けて 2 つ、JpGU が今後どのような方向へ向かうのかという戦略、そして JpGU 運営に対する要望とする。

05. 秋学会新投稿システムについて

2019 年度に導入を予定している秋学会新投稿システムについて、これまでの経緯と検討事項が示された。日本語版と英語版の 2 言語のページを作成すると金額も 2 倍になってしまうので、英語版に日本語の併記が可能かを確認する。投稿者がテンプレートを用いて予稿原稿を作成し、PDF ファイルを投稿する。紙のプログラムを印刷しない。来年度の予算で実施する業務だが、今から作りこみをしないと間に合わない。したがって、予稿テンプレートの準備、プライバシーポリシーの英訳、

HP 作成を行っていく。5月の総会で投稿方法等の説明をする。

06. EPS 関連 (雑誌担当)

事務局に関して雇用関係、事務所関係について報告された。

07. その他

・賛助会員について

来期以降、賛助会員である企業に対してもう少しメリットになることを運営委員会で検討する。

・役員選挙関連

選挙結果の具体的な報告は次回の運営委員会でを行う。内規の修正を次回の運営委員会の議題とする。

・次回運営委員会

2019年4月3日(水)に東京大学理学部1号館105号室で開催する。前半は第29期、引継ぎを実施した後、後半は第30期第1回運営委員会とする。

(第29期運営委員・庶務 松島政貴)

第29期第9回運営委員会報告

日時：平成31年4月3日(水) 10:30-13:40

場所：東京大学・本郷キャンパス 理学部1号館105号室

出席：渡部(会長)、大村(副会長)、天野、海老原、大塚、加藤、佐藤、齋藤、田口、津川、馬場、松清、松島、山本(裕)、吉村

リモート：中村、橋本

欠席：堤

オブザーバ：山本(衛)(第30期副会長)、第30期運営委員(浅村、阿部、臼井、大矢、坂中、三好、行松)

議事

0. 前回議事録の確認(第29期第8回、臨時運営委員会)

承認された。

1. 選挙結果報告(総務)

・第30期の副会長、評議員、運営委員の選挙結果について報告された。

1-1 内規の改定について

・内規第2条(役員の選挙)の改定案が示され、引き続き検討することとした。

・内規第6条(会員の権利)2項の改定案が示され、「すべての会員はEPS誌の論文掲載料として会員割引価格の適用を受ける権利を有する」と変更することが承認された。

1-2 「学生会員の運用に関する申し合わせ」の改定について

・学生会員の有効期間および入会日について議論され、引き続き検討することとなった。

2. 協賛・共催関係(庶務)

・承認済みの共催(3件)及び協賛(3件)が報告された。

○共催

・9th East-Asia School and Workshop on Laboratory, Space, and Astrophysical Plasmas; EASW9

開催日時：2019年7月29日(月) - 8月2日(金)

開催場所：Engineering and Science (E&S) Bldg., Nagoya University (Higashiyama Campus)

主催：EASW9 Scientific and Local Organization Committees

HP：<http://www.p.phys.nagoya-u.ac.jp/EASW9/>

・第27回衛星設計コンテスト

参加登録受付：2019年4月1日(月) - 5月15日(水) 17時

応募作品提出期限：2019年7月8日(月) 12時

第一次審査結果の通知：2019年8月下旬頃

最終審査会：11月9日(土)

最終審査会会場：アスティとくしま(徳島県徳島市)

・The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2022)

開催日時：2022年9月10日(土) - 16日(金)

開催場所：別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza

主催 : International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA) Division VI: Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies

○協賛

・第74回藤原セミナー／国際金星会議 2019
開催日時:2019年5月31日(金)－6月3日(月)
開催場所:北海道 ニセコ ヒルトンビレッジ
主催:International Venus Conference 2019 Organizing Committee
HP:

<http://www.cps-jp.org/~akatsuki/venus2019/>

・3rd Asia-Pacific Conference on Plasma Physics
開催日時:2019年11月4日(月)－8日(金)
開催場所:Daoxianglou Hotel, Hefei, Anhui, China
主催:Association of Asia Pacific Physical Societies - Division of Plasma Physics (AAPPS-DPP)

HP: <http://aappsdp.org/DPP2019/index.html>

・日本流体力学会年会 2019
開催日時:2019年9月13日(金)－15日(日)
開催場所:電気通信大学
主催:日本流体力学会
HP: <http://www2.nagare.or.jp/nenkai2019/>

3. 入退会審査(庶務)

・入退会について承認された。(括弧内は紹介会員)

○入会1名 学生:吉田理人(富川喜弘)
○退会2名:海外1名 植原稔、一般1名 齋藤実穂

・メールで承認済みの以下の入退会について報告された(括弧内は入会時の紹介会員)

○入会
一般:佐藤哲郎(中村教博、山崎俊嗣)
学生:中川裕美(新堀淳樹)
○会員種別変更
一般→シニア:坂翁介、佐藤亨、井口博夫、本蔵義守、高橋主衛、利根川豊、宮岡宏、伊藤孝
○退会

一般:竹田雅彦、小川徹、永野達也、柴田一成、渡辺富也、徳本哲男

○2018年秋学会 学生会員新規入会
兵藤史(高橋太)、滝沢響吾(津田卓雄)、渡邊香里(星野真弘)、篠置仁崇(河野英昭)、樋渡淳也(渡邊智彦)、田寺慶樹(阿部琢美)、惣宇利卓弥(大塚雄一)、福山代智(齋藤義文)、菅さおり(羽田亨)、梅垣千賀(天野孝伸)、中本雄介(Liu Huixin)、河瀬慎一郎(田口真)、石島陸(長濱智生)、渡邊太郎(山本真行)、中村龍一郎(三宅壮聡)、梶原直也(今村剛)、石井智士(鈴木秀彦)、河野実裕(小山幸伸)、岡田凌太(齊藤昭則)、政岡浩平(山本裕二)、八木直志(坂野井健)、庄子聖人(中田裕之)、岩田裕之(塩川和夫)、澤田康史(八木谷聡)、川合悠生(細川敬祐)、伊藤良太(平原靖大)、源田斗輝(尾崎光紀)、藤井亮佑(三好由純)、五十嵐智(笠原禎也)、武井智美(平原聖文)、伊藤大輝(三好由純)、白藤祐稀子(田口真)、丸山慶(大矢浩代)、關博則(水野亮)、大早田翼(阿部琢美)、吉田奈央(寺田直樹)、辻野勇樹(羽田亨)、福谷貴一(今村剛)、新城藍里(小嶋浩嗣)、福江一輝(山口寛)、河村光次郎(徳永旭将)、関根友博(大村善治)、大野敦裕(加藤雄人)、荒木瑞穂(星野真弘)、森俊樹(石坂圭吾)、坂田遼弥(関華奈子)、鈴木達也(平原靖大)、廣田尚樹(小山幸伸)、宮下拓也(大矢浩代)、岸幸直(羽田亨)、成田穂(今村剛)、中村勇貴(笠羽康正)、長房勇之介(田口聡)、木村康択(細川敬祐)、堀江由実(松清修一)、出原千裕(野口克行)、上田真由(野口克行)、TSENG Kuo Hsuan(小川康雄)、大野夏樹(中田裕之)、治田有里紗(渋谷秀敏)、村上涼(齊藤昭則)、吉村由多加(山崎俊嗣)、高橋溪太(大村善治)、高田雅康(関華奈子)、Kirolosse Girgis(羽田亨)、森亮太(今村剛)、三木淳平(小嶋浩嗣)、山川智嗣(関華奈子)、小川勇太(笠原禎也)
○退会 ⇒ 2018秋学会参加のため、復会とした熊谷祐穂(中村教博)、武藤圭史朗(今村剛)、井上智寛(尾崎光紀)、沼澤正樹(江副祐一郎)、ノエル サマディ(橋口浩之)、徳永祐也(尾崎光紀)、波多江真紀(吉川顕正)
○2018年秋大会不参加のため退会とした中野谷賢、久保田結子、遠藤研、金田和鷹、北原優、鈴木健士、香取勇太、元山舞、中川裕美、岡崎智久、森田笙、鈴木文晴、Prayitno Abadi、長南光倫、早川尚志、高橋優希、木下雄介、遠藤友、内

田ヘルベルト陽仁、今井優介、韓秀萬、北原岳彦、西口俊弥、山口航平、大筆想、出島工、岡大貴、飯田剛平、鎌田有紘、寺田綱一郎、山本淳史、杉山俊樹、香月のどか、安倍松侑太、青柳優介、水野遼、武田大海、秋葉丈彦、豊岡雅士、加納康裕、中森広太、高橋翼、川嶋貴大、三浦翼、福井健人、浅野貴紀、三村恭子、北村佑輔、奥田雅大、岩崎和人、岡村紀、石須慶一、任杰、矢野真琴、李蕊白、東尾奈々、Yuan Yiren、Moral AysegulCeren、NorAzlan BinMohdAris、青木亮輔、荒川峻、伊師大貴、石ヶ谷侑季、山内杜夫、大井川智一、沖知起、織田優心、眞鍋佳幹、松本怜、上吉川直輝、松田幸樹、河合佑太、川内諒太、ワリア ネプリート カウル、久保田匡亮、黒江健斗、後藤悠志、酒井大士、坂本明香、佐藤弘、須藤佑実、高木佑基、寺岡毅、飛田美和、西勝輝、西田圭吾、西田侑治、野海智貴、長谷川達也、初山凌介、弘田瑛士、羽入朋子、疋田伶奈

3-1 賛助会員について

・賛助会員のメリットを整理し、ウェブに掲載することになった。

3-2 長期未納者について (会計)

3年以上未納の会員15名に対し、会費支払いの意思の有無をお尋ねしている。3名については改めて連絡をしたうえで退会とする。

4. 助成関係

4-1 JpGU 会期中に開催する集会の会場費支援 (庶務)

・5件の申請があった。このうち、将来構想検討WG、SGEPSS 学生発表賞の会合については学会の運営費で支出することにする。
・ほかの3件については会場費支援を認めることにした。

5. 各種賞推薦状況

・日本学術振興会賞に2名を推薦することについて承認されたことが報告された。
・学会特別表彰の題目について評議員会で決定されたことが報告された。

6. EPS 関係 (会長、雑誌)

○科研費

・JpGU 会長が代表者となり、PEPS と EPS への補助を一本化して申請した科研費 (研究成果公開促進費) が採択された。両誌合わせての交付予定額は740万円 (2019年度)、900万円 (2020-2023年度)。

○出版

・2018年度に208編が出版された。現在、投稿数が低調である。

・EPS express letter 誌の査読期間を短くし、差別化をはかることにした。

・特集号の提案はEPS編集長に直接メールを送る。積極的に特集号の企画を提案したほうがよいとの意見があった。

○事務局

・編集事務局員を無期雇用転換、契約書の取り交わしを完了した。

・編集事務局オフィスを5月1日付で池袋に移転する。会長名義で契約した。

7. 会員管理・秋学会投稿システム

・英語版パックに可能な限り日本語を併記する方向で要求仕様書を策定し、業者とのすり合わせを行ったことが報告された。

・見積書には日本語のみ対応とあり確認が必要である。プログラム冊子の作成とウェブに掲載するための作業が不透明である。投稿状況の確認やセッション間の移動ができるかわからないという意見があった。

・投稿から全ての論文情報を出力するまでの全過程を試用することができるよう業者に打診することにした。

8. 総括

会長から第29期の総括があった。また、各担当からも総括があり、個別に引き継ぎを行った。

(第29期運営委員・庶務 海老原祐輔)

第30期第1回運営委員会報告

日時：2019年4月3日 (水) 14:30-15:30

場所：東京大学・本郷キャンパス 理学部1号館105号室、Zoom

出席 (総数18名、定足数11名)：大村善治 (会長)、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、

海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、津川卓也、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

リモート：山本衛（副会長）、橋本久美子

1. 会長挨拶

はじめに大村会長より今期の運営委員会では以下の3点を進めていきたいとの挨拶があった。

●学会 Web の充実について

業者に委託する、もしくは会員の有志を募るなどして改善していきたい。また ML 関係の自動化や英語版の充実についても進めていきたい。

●分科会の見直しについて

会報への報告書が出ていない・分科会活動が見えない分科会の扱いや、学会名（分科会名）を冠して学術会議などへ公式文書を出す際の手続き（運営委員会の承認等）についてルール作りをしていきたい。

●EPS 誌について

EPS 誌は会員のサポートによりインパクトファクターも高くなっており、論文数も順調に伸びている。直近では特集号の減少などの影響によって論文数が伸び悩みを見せているが、今後も EPS 誌に良い論文を投稿して盛り上げていきたい。

2. 第 30 期運営委員役割分担の確認

●広報 Web・ML については一つの役務であったものを Web と ML の 2 つに分離する。これは Web の充実を図るためであり、人員も 4 名を Web 担当に配置する。

●地球惑星科学連合対応の役務については一つにまとめる。

●法人化対応 TF については設置しない。全員参加の総会を開催するキャパシティが確保出来ず、代議員制を取らなければいけない場合には法人化が必須となるが、法人化すると事務作業が格段に増加する。SGEPSS の現在の会員数を考えると当面は法人化するだけのメリットは無いとしたため。ただし法人化の準備として行ってきた事業計画書・事業報告書の Web 掲載については継続する。

●秋学会の新投稿システム TF を新規に設置する。

●役割分担は以下の通り。

- ・会長：大村善治
- ・副会長：山本衛
- ・総務：海老原祐輔
- ・庶務：天野孝伸（主）、津川卓也

- ・会計：佐藤光輝（主）、浅村和史
- ・雑誌：吉村令慧（主）、加藤雄人、臼井洋一
- ・秋学会：山本裕二（主）、阿部修司、大矢浩代
- ・広報 Web：橋本久美子（主）、松島政貴、三好由純、佐藤光輝

・広報 ML：阿部修司、坂中伸也

・広報会報：阿部修司（主）、吉村令慧、山本衛

・アウトリーチ：坂中伸也（主）、行松彰、橋本久美子、津川卓也（**）

・男女共同参画：大矢浩代（主）、橋本久美子、海老原祐輔

・助成金：津川卓也（主）、坂中伸也

・学生発表賞：臼井洋一（主）、三好由純

・3 学会合同プラズマ対応：天野孝伸

・連合大会プログラム委員：浅村和史（主）、松島政貴

・連合対応：松島政貴（主）、行松彰

・将来構想 WG：三好由純（主）、臼井洋一

・新投稿システム TF：加藤雄人（主）、佐藤光輝（主）主担当、（**）アドバイザー

3. 秋学会関連の準備状況確認

秋学会関連の準備状況について説明があった。

●今年の秋学会は 10 月 23-27 日に開催し、講演会・総会は 23-26 日に熊本市国際交流会館にて、アウトリーチイベントは 27 日に熊本市立熊本博物館にて開催する。

●秋学会に向けてのスケジュール案を確認した。

●熊本大 LOC から、特に受付、HP、アルバイトの手配について運営委員のサポートが欲しいとの要望があることが説明された。（松本大会の時には学生会員の対応があったため運営委員が対応した例があるが、今回は LOC の人員が少ないため全面的なサポートが必要。）

●特別セッションの募集文案について確認した。

●秋学会担当から特別セッションの募集締切を JPGU 前の 5 月 20 日にしたいが、会報の発行をそれよりも前にして欲しいとの要望があった。これを受けて発行日を 5 月 17 日としてスケジュールを組むこととなった。

●秋学会期間中の運営委員会の部屋確保について秋学会担当で検討する。

●プレスリリースを出す際には熊本大学の広報を通じて出してもらうと効果があるため、広報担当者とその可能性について検討する。

4. 次回運営委員会・評議員会・総会

以下の通り連合大会期間中の会議日程を確認した。

●運営委員会

5月26日(日) 18:30~20:30 106室

●評議員会

5月27日(月) 18:30~20:30 202室

●総会

5月29日(水) 12:30~13:30 302室

●学協会長会議(会長が出席)

5月28日(火) 12:30~13:30 101室

5. その他

●広報 Web 担当・ML 担当で TF の募集や案の検討を始める。

●会長と総務で分科会内規の見直しを始める。

●アウトリーチ担当から衛星設計コンテストの実行委員として運営委員会から行松委員を推薦することが提案され、これを承認した。

(第30期運営委員・庶務 天野孝伸)

第145回総会開催のご案内

第145回総会を連合大会開催中の下記の日時に開催します。開催日時：2019年5月29日(水) 12:30~13:30 開催会場：幕張メッセ国際会議場302室(日本地球惑星科学連合2019年大会会場) 学会賞授与や重要な議事がありますので、会員の方は是非ご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に委任状の提出をお願い致します。電子委任状は電子メールまたはウェブでの提出を受け付けています。詳しくはメーリングリスト(sgepssall@sgepss.org)での案内をご覧ください。

(第30期運営委員・総務 海老原祐輔)

学会費納入についてのお知らせ

2019年度学会費納入をご案内いたします。所定の方法によってお支払いいただきますようお願い申し上げます(納入期限:7月31日)。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入していただく会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストも相当かかりますので、

期限までの納入への皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

なお、学生会員については秋学会への参加費として会費は領収されますので、今回の学会費納入案内は行いません(正会員へ移行となる会員には案内をお送りします)。

当学会の会費納入は以下の4つの方法よりお選びいただけます。

(1) 銀行振込(校費払いも可能)

(2) 銀行口座自動引き落とし(7月下旬に引き落とし予定)

(3) クレジットカード払い

(4) JpGU会場SGEPSSデスクでの支払い(現金のみの取り扱い)

学会費の支払い方法変更については随時受け付けておりますが、基本的には翌年度の支払い時から有効となります。もし今年度の学会費支払い方法を変更されたい場合は、至急事務局(sgepss@pac.ne.jp)にご連絡下さい。

銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担しません。毎年のお支払いの手間を省くには、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の会員は書面による手続きが必要となりますので、事務局へお問合せください。

2019年度JpGU会場の学会デスクにおける会費支払いは、5月28日(火)の13:00-18:00、および29日(水)の9:00-17:00に受け付けています。

(第30期運営委員・会計 佐藤光輝、浅村和史)

2019年秋学会および特別セッション募集のお知らせ

2019年秋学会(第146回総会・講演会・一般公開イベント)は10月23日(水)~10月27日(日)に、熊本市国際交流会館(熊本県熊本市)を中心に開催されます。講演予稿の投稿期間は6月下旬~7月下旬を予定しております。皆様のご参加・ご講演をお待ち申し上げます。

特別セッションの募集

2019年秋学会の講演会(10月23日(水)~10月26日(土):熊本市国際交流会館)開催に向けて、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の

詳細は下記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前、ご所属、ご連絡先
2. セッションタイトル（日本語および英語）
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模（参加見込人数）

応募先：fm@sgepss.org

締切：2019年5月20日（月）17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討の後、採択が決まったご提案について会報やホームページ等で周知させていただきます。多数のご応募をお待ちしております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

（第30期運営委員・秋学会 山本裕二、阿部修司、大矢浩代）

記：「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は、次のような内容を議論する場として位置づけられています。

- ・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時機にあった話題、重要テーマなど）
- ・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。これまで開催された特別セッションは以下の通りです。

2004年秋：「宇宙天気」

2005年秋：「宇宙進出とSTP科学の接点」「SGEPSSにおける小型衛星の可能性」

2006年秋：「地上－衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて」「地球惑星磁気圏探査：将来計画～これからの黄金の20年とするために～」

2007年秋：「STE研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望」「SGEPSS 創立60周年記念特別セッション：地球電磁気学の歩み」

2008年秋：「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」

2009年秋：「月周回衛星『かぐや』観測によるSTP研究の新展開」

2010年秋：「SGEPSSにおける最新の月科学：『かぐや』から次の時代へ」

2011年秋：「電離圏変動と地震の関係」

2012年秋：「地殻・大気・電離圏結合」「地球電磁気・地球惑星圏科学の将来構想」

2013年秋：「国際宇宙ステーションからの地球大気・プラズマ観測による新展開」

2014年秋：「ひさき衛星（EXCEED）の成果と期待する科学」

2015年秋：「大型大気レーダー観測の新時代に向けて」「アジア・オセアニア国際連携による宇宙惑星系探査・観測の新機軸」

2016年秋：「考古学と地球電磁気学」

2017年秋：「あらせ衛星/地上観測によるジオスペース研究の新しい展開」

2018年秋：「あらせ」および多衛星・地上連携観測によるジオスペース研究の進展」

国際学術交流報告

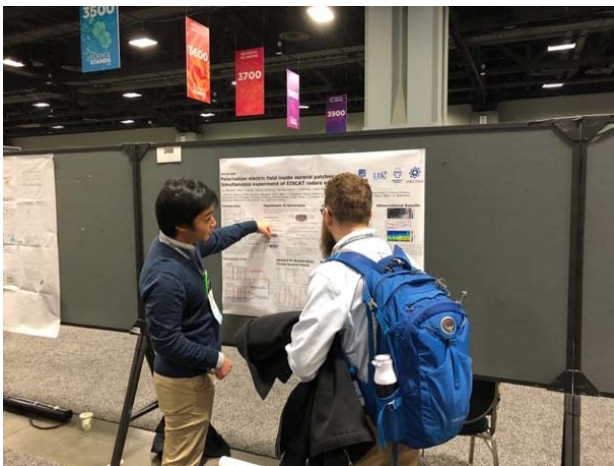
国際学術交流若手派遣

AGU Fall Meeting 2018 参加報告

高橋 透

この度は国際学術交流若手派遣の支援を受けて Washington D. C. で開かれた AGU Fall Meeting に参加し、「Polarization electric field inside auroral patches: Simultaneous experiment of EISCAT radars and KAIRA」というタイトルでポスター発表を行いました。参加者は3万人程度で、我々の分野では世界最大の学会です。近くのCafeのお姉さんは「こんなに多くの方が Convention Center にいるのは初めてでエキサイティングだわ」と言っており、街全体で盛り上がっていました。

ポスター発表ではオーロラパッチ内部に生成された分極電場の生成メカニズムについて発表しました。この研究内容は現在論文として投稿し、査読中です。今回の発表では、多くの人に発表を聞いてもらい我々の論文を広く知ってもらうこと、



研究を発展させるために様々なグループの研究者と議論し、新たな視点からのコメントをもらうこと、を目標にしました。発表前の数日間に頑張っ
て宣伝した甲斐があり、20名を超える研究者が私のポスター発表を聞きに来てくれ、目標は概ね達成
できました。また、衛星観測やロケット観測を行っている研究者とより発展的な議論も行うことが
できました。

この他にも主に SPA-Aeronomy のセッションに
参加し、口頭発表とポスター発表を聞きました。
アブストラクトでのアピールやプレゼンテーショ
ンでのインパクトの与え方が、外国人研究者は非
常に上手く、参考になる点が多いと感じました。
さらに、前回参加した5年前よりも、民間企業と
共同で開発した超小型衛星や機械学習といった新
しい手法を用いた研究が大幅に増加しており、観
測手法のみならずレーダー、カメラ、衛星などで
観測された膨大なデータの処理方法が今後大きく
変わっていくのではないかと感じました。また、
タッチパネルを用いた発表も行われているなど、
発表形態も新しい方向に向かっていると感
じました。さらに、学生時代の海外の友人の多くがポ
スドクとなり、様々なプロジェクトを主体的に牽引
している発表を多く見ました。これは、かなりの
刺激になり研究モチベーションの向上になりました。

末筆となりましたが、SGEPSS 国際学術交流若手
派遣の支援によって貴重な体験を得ることができ
ました。このような機会を与えていただいた運営
委員の方々、SGEPSS 学会員の皆さまに厚く御礼を
申し上げます。

国際学術研究集会補助 「成層圏・対流圏の諸過程と気 候影響研究」に関する 2018 年総 会開催報告 (The SPARC 2018 General Assembly) 佐藤薫

開催日：2018 年 10 月 1 日～5 日

開催場所：みやこめっせ（京都府京都市）

「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」
(SPARC: Stratosphere-troposphere Processes
And their Role in Climate) は、国際連合の専門
機関の一つである世界気象機関 (WMO) が推進し
ている WCRP (世界気候研究計画) の 4 つのコア
プロジェクトの一つであり、この総会は SPARC コ
ミュニティが 4 年に 1 度開催する国際学術研究集
会である。第 1 回目の 1996 年以来、当会議で第 6
回目をむかえ、これまでに地球温暖化やオゾン
ホールなどの気候問題に対して、成層圏から対流
圏の大気力学、大気化学の分野に関連する基礎科
学から応用研究まで幅広く研究成果が活発に報
告・論議されてきた。過去に北米、南米、欧州、豪
州などで本総会が開催されてきたが、今回アジア
地域ではじめて日本において開催された。

SPARC が対象とする分野の研究者群は、温室効
果気体やオゾン破壊物質の影響評価や将来予測な
どを通し、IPCC (気候変動に関する政府間パネル)
報告書や WMO/UNEP (世界気象機関/国連環境計
画) オゾンアセスメントレポートなどの形で国際
的に貢献している。また、気球やレーダーなどの
地上からの大気観測や衛星によるグローバルな大
気観測、それらによって得られたビッグデータと
大規模数値モデルによるシミュレーションとを組
み合わせた解析を通して、長期的な将来予測を可
能としており、社会的にインパクトのある研究を
支える基礎研究 (大気力学、大気放射、大気化学)
の発展に貢献している。SPARC は大気物理学と大
気化学の研究者が密接に連携研究をおこなって
いる点も大きな特徴である。特に今回は大気化学
の学術組織 IGAC (地球大気化学国際協同研究計
画) の会合 (2018 年 9 月 25～29 日、高松市) との連
続開催であり、IGAC に関連する研究成果発表は
会議の初日と 2 日目に配置され、IGAC に参加し

た人に対してこの期間に限り参加費の割引を行った。

会議では、地表から高度 100km くらいまでの、対流圏・成層圏・中間圏・下部熱圏大気の力学・化学プロセスに関する最新の研究成果が報告され議論された。温室効果気体等の大気組成の変化や、オゾン層回復に伴う気候変化の把握と科学的理解、将来予測に関する技術、風や気温、化学組成やエアロゾルの観測技術、大気中の様々な波動や変動、様々な時間・空間スケールをもつ大気変動の予測可能性や技術等に関する最新の研究成果が報告され論議された。このような研究の進展はより確実な気候変動予測につながると同時に、その成果は次期 IPCC 報告書や WMO/UNEP オゾンアセスメントレポートにも反映される。また、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) にも深く関係し、政策にも活かされることとなる。

会議で報告・議論された具体的な項目は以下のとおりである。それぞれのセッションで、観測、データ解析、理論、シミュレーションによる研究成果の報告が行われ、活発な議論が行われた。また、会議の最後に SPARC の今後の在り方に関する自由討論が参加者全員で行われた。

1. 大気微量成分・大気化学の天候・気候との関連
エアロゾルの観測と解析、火山噴火の影響解析、成層圏オゾン、大気力学と微量成分の長距離輸送、長寿命微量成分の観測と解析、アジアモンスーン、上部対流圏・下部成層圏領域、気候解析
2. 数週間から数十年スケールの気候予測
時間スケールが数週間から数ヶ月程度の変動予測、数十年スケールの変動予測、極端気象
3. 気候変動・変化と大気力学
中間圏と下部熱圏の大気とその変動、太陽活動と火山活動の大気への影響、赤道大気準二年振動

(QBO) とその遠隔影響、重力波、成層圏突然昇温、極渦変動とブルーワドブソン循環、成層圏の対流圏気象・気候への影響、環状モード変動と中高緯度低気圧、大気の成層圏-対流圏交換過程と上部対流圏・下部成層圏のプロセス、ハドレー循環・エルニーニョ・太平洋十年規模振動、大気海洋結合過程とテレコネクション (気象現象の遠隔因果関係)、テレコネクションと地域気候変動

4. 熱帯大気プロセスに関連した大気の影響と相互作用

熱帯対流圏界面・上部対流圏・下部成層圏とアジアモンスーン、QBO やエルニーニョ等に関連した成層圏力学、上・下層大気の力学結合と QBO・エルニーニョ・マッデンジュリアン振動、オゾン・水蒸気の輸送・変動・長期トレンド、対流圏力学と降水

5. 大気観測および再解析データの進展

年々変動と気候、大規模スケールの力学、重力波と乱流、長寿命物質とエアロゾル (衛星観測、地上観測、データセット)、下部対流圏および地表面過程

6. SPARC による科学成果と一般社会との関わり 気候変化と極端気象、気候と社会活動

参加受付を開始した大会前日 (9 月 30 日) から大会初日 (10 月 1 日) にかけて、台風 24 号の接近があり、飛行機や鉄道などの交通機関に大きな影響があった。国内外からの参加者の多くがこの影響を受けるため、開催時刻や大会プログラムの変更を急遽行い対応を行った。そのため、計画よりもタイトなスケジュール構成にはなったが、全体としてほぼ計画通りの会議を行うことができた。

本国際研究集会の開催にあたり、地球電磁気・地球惑星圏学会の国際学術研究集会補助を受け、



SPARC 総会 オープニングセッション時の大会参加者全体写真

東南アジアから参加する 5 名の若手研究者の参加費を免除することができ、参加者の拡大に繋がったと考えている。厚く感謝申し上げます。

分科会報告

「Conductivity Anomaly 研究会」 分科会 2018 年度活動報告 山口 寛

2018 年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

2018 年度の Conductivity Anomaly 研究会は、京都大学防災研究所において共同利用研究集会「地球電磁気研究の災害軽減への応用」（研究代表者 神田 径）という研究集会名で開催されました。2019 年 1 月 10 日から 11 日までの日程で、口頭発表 20 件（うち招待講演 6 件）、ポスター発表 26 件の合計 46 件の講演があり、参加者数は 2 日間のべで 78 名（うち大学院生 18 名）を得て活発な議論が行われました。

本研究会では、通常の地球内部電磁気現象に関する諸問題の講演に加えて、斜面災害に焦点を当てたセッションが企画され、釜井俊孝先生（京都大学）、木下篤彦先生（国土交通省国土技術政策総合研究所）、千葉達朗先生（アジア航測株式会社）の招待講演をいただきました。また、地球内部電磁気学研究、地磁気観測に長年携わられて 2018 年度末で退職された歌田久司先生（東京大学）、茂木透先生（北海道大学）及び大和田毅氏（気象庁地磁気観測所）には、これまでの研究及び事業を振り返った講演をいただきました。

例年同様に、一般の口頭発表・ポスター発表には学生・大学院生の発表が数多くありました。春・秋の学会発表とは性格を異にした研究会において、特に 2018 年度の研究会においては、一般口頭発表は 1 件につき 20 分の時間が確保されて



質疑・コメントの時間が長めに取られ、ポスター発表はコアタイムが 2 度設けられるなど、発表者と参加者との間の充実した議論ができる実り多い研究会となりました。

研究会の開催に当たり、招待講演を快く引き受けてくださった先生方、議論に参加いただいた皆様、研究集会の準備をいただいた大志万直人教授をはじめとする京都大学防災研究所の皆様へ感謝を申し上げます。

Conductivity Anomaly 研究打合せ会

2018 年度も例年通り、JpGU 大会（2018 年 5 月 24 日）、SGEPSS 秋学会（2018 年 11 月 25 日）、および CA 研究会（2019 年 1 月 11 日）のそれぞれの機会に計 3 回の研究打合せ会を実施しました。

2022 年の Electromagnetic Induction Workshop の日本への誘致が夏に実現し、今後は workshop の LOC が進める開催準備活動の情報を共有するとともに、国内の CA グループの活動の隆盛が課題となります。後者の一環として、1 月の打ち合わせ会では CA 研究会の持ち方に関する議論を行いました。若手 2 名からの要望を議論の叩き台として、参加者の自由な討論を行い、特に以下の 4 点について意見交換が行われました。1) 共同利用研究集会として開催される CA 研究会という側面について、2) 参加メンバー間のコミュニケーションの深化の場としての CA 研究会という側面について、3) JpGU、秋学会と CA 研究会との差別化について、4) CA 研究会の運営について。次回打ち合わせ会ではこれらの議論を踏まえて、CA 研究会の持ち方についての新しい具体的方策について、提案と議論が行われる予定です。

中間圏・熱圏・電離圏研究会 (略称：MTI 研究会) 平成 30 年 度活動報告

富川喜弘、新堀淳樹、津田卓雄、
西岡未知、穂積 Kornyanat、横山竜宏

当分科会は、超高層大気物理学、中層大気物理学、地球電磁気学、電波工学など様々なバックグラウンドを持つ研究者が相互に交流し、協力し合う場を作り、より効率的・効果的な研究活動に繋げることを目的として活動している。平成 30 年度には、JpGU 大会及び SGEPS 秋学会開催期間中に会合を持ち、国内外において現在進行中のプロジェクト、研究計画などについて情報交換を行った。また、平成 30 年 9 月 10 日 - 14 日には同分野の関連研究集会を 5 集会合同で開催した。また、世話人の任期満了に伴い、平成 30 年 12 月から、世話人体制を更新した(任期 2 年)。

第 34 回 MTI 研究会集会

日時：平成 30 年 5 月 22 日(火) 12:30-13:30

場所：幕張メッセ国際会議場 304 会場

話題提供：

1. SDI-3D プロジェクト、大山 伸一郎(名古屋大学宇宙地球環境研究所)
2. SuperDARN WS 2019 @ Japan について、長妻 努(情報通信研究機構)
3. MTI 領域の衛星観測について、齊藤 昭則(京都大学)
4. SCOSTEP の次期プログラムの議論、塩川 和夫(名古屋大学宇宙地球環境研究所)
5. H30 年度中間圏・熱圏・電離圏研究集会について、横山 竜宏(世話人代表)

第 35 回 MTI 研究会集会

日時：平成 30 年 11 月 25 日(日) 12:40-13:30

場所：名古屋大学 ES 総合館 ES205 講義室

話題提供：

1. SuperDARN Workshop 2019 について、中溝 葵(情報通信研究機構)
2. 超小型衛星プロジェクトの動向、高橋 幸弘(北海道大学)
3. SMILES2 衛星の状況について、齊藤 昭則(京都大学)

4. SCOSTEP の次期プログラムに関する議論、塩川 和夫(名古屋大学宇宙地球環境研究所)
5. インフラサウンド観測網の整備状況、山本 真行(高知工科大学)
6. 短波ドップラー観測網の紹介、細川敬祐(電気通信大学)
7. 次期世話人について、横山 竜宏(世話人代表)

中間圏・熱圏・電離圏(MTI) 研究集会

開催日：平成 30 年 9 月 10 日(月) - 9 月 14 日(金)

場所：情報通信研究機構 小金井本部 本館 4 階 国際会議室

MTI 研究集会は、平成 10 年以降毎年開催されてきた。今年度は、「STE 現象報告会」、「宇宙空間からの地球超高層大気観測に関する研究会」、「IUGONET 研究集会」、「科学とデータ研究集会」との共同開催とし、異なる分野の研究者同士の交流を図ることも目的とした。名古屋大学宇宙地球環境研究所、京都大学生存圏研究所、国立極地研究所、情報通信研究機構、情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設の共同主催として、平成 30 年 9 月 10 - 14 日(うち MTI 研究集会は 11 - 13 日の 3 日間)の日程で開催した。MTI 研究集会への参加者は 67 名(全期間 97 名)、のべ 174 名(全期間 206 名)であった。今年度は、一部未完成となっている MTI ハンドブックの最終完成を目指し、主に未完成項目に関連する基調講演者を招待して、基礎知識から最新の研究成果に関する知見を共有した。そして、講演者または聴講した若手研究者が、講演内容を初学者に役立つテキストとして整理し、来年度の 4 月末までに MTI ハンドブックとして web 上で公開することが決まった。また、ポスターセッションにおいては、若手研究者や学生を中心に 21 件の発表があった。若手研究者や学生らをエンカレッジするために長めのコアタイムを設けており、中堅からシニアの研究者が彼らのポスター発表を熱心に聴き、議論する姿が見られた。共同開催された他の研究集会への参加者も多く、共同開催の意義は十分に見られたと考えられる。

MTI 研究会の活動・関連情報(研究集会など)やメーリングリストへの参加方法は、MTI 研究会ウェブサイト(<http://mti.nict.go.jp/>)にて公開している。

内部磁気圏分科会活動報告

三好由純、加藤雄人、笠原慧、
寺本万里子

内部磁気圏分科会は、内部磁気圏研究に関連する諸分野との交流、共同研究やキャンペーン観測の促進、新しい内部磁気圏探査ミッションの実現などを通して内部磁気圏研究を推進することを目的としています。平成 30 年度は、分科会として以下の 2 回の会合を行いました。

○第 39 回内部磁気圏分科会

日時：2018 年 5 月 21 日

場所：東京ベイ幕張ホール（日本地球惑星科学連合大会会場）

この会合では、ジオスペース探査プロジェクト ERG (Exploration of energization and Radiation in Geospace) に関して、あらせ衛星を中心としたプロジェクトの現状報告と今後の予定について情報交換を行いました。また、ERG サイエンスセンターの活動報告、将来構想文書の改訂、北欧・北米での脈動オーロラロケット実験の実施、MMS 衛星の現況、SCOSTEP の次期プログラム、PWING プロジェクトの現状、SuperDARN WS 2019@Japan についての報告がありました。

○第 40 回内部磁気圏分科会

日時：2018 年 11 月 24 日

場所：名古屋大学・東山キャンパス（SGEPSS 秋学会会場）

この会合では、ERG プロジェクトの進捗についての報告の他、ERG サイエンスセンターの活動報告、PWING プロジェクトの現状とデータベース、SuperDARN Workshop 2019、MMS 衛星の現況、SCOSTEP 次期プログラムの議論についての報告がありました。

また、当分科会の活動に関連する ERG 衛星データの解析講習会、脈動オーロラ研究集会が、名古屋大学宇宙地球環境研究所の研究集会として開催され、それぞれ数十名の参加がありました。



○「あらせ衛星粒子観測器データ解析ワークショップ」

日時：2018 年 9 月 19-20 日

場所：東北大学大学院理学研究科

○「脈動オーロラ研究集会」

日時：2018 年 10 月 30-31 日

場所：名古屋大学宇宙地球環境研究所

○「ERG サイエンス会議/あらせ衛星の電場・プラズマ波動観測データを用いた解析ワークショップ」

日時：2019 年 3 月 5-6 日

場所：名古屋大学宇宙地球環境研究所

○「プラズマ圏の観測とモデリング」「ジオスペースにおけるプラズマ波動研究集会」

日時：2019 年 3 月 30 日

場所：大阪電気通信大学駅前キャンパス

分科会での発表資料の一部は、分科会ホームページでご覧頂けます。

内部磁気圏分科会ホームページアドレス：
(<https://sites.google.com/site/naibujikikenbunkakai/>)

「地磁気・古地磁気・岩石磁気 研究会」分科会報告

望月伸竜、山本裕二、岡田誠

平成 30 年度の分科会活動について、年 2 回の分科会会合（執筆 望月伸竜 会員）、J-DESC コアスクール 古地磁気コース 2018（執筆 山本裕二 会

員)、夏の学校(執筆 岡田 誠 会員)、をそれぞれ報告させていただきます。

(1) 分科会会合

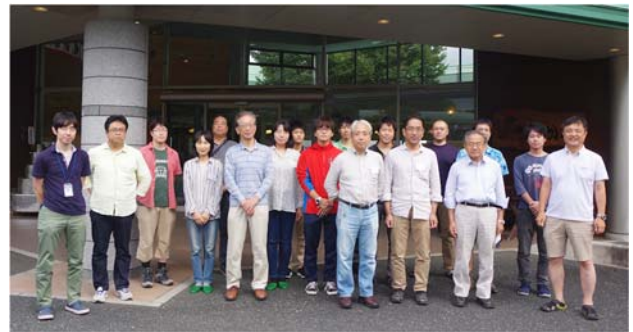
本分科会では、JpGU と SGEPPS 秋季講演会のときに、本分野の研究・教育・社会貢献に関する話題についての情報交換・議論を行う会合を行っている。JpGU2018 期間の会合では、EPS 特集号、高知コアセンターの共同利用・コアスクール、2018 年の夏の学校(幹事: 茨城大学)などについての説明があり、また GSSP (Global Boundary Stratotype Section and Point; 国際標準模式層断面及び地点) 申請に関する現状への対応を協議した。SGEPPS 秋季講演会期間中の会合では、GSSP 申請、2019 年の夏の学校(幹事: 富士山科学研究所)、JpGU2019、SEDI-J、高知コアセンターの共同利用・コアスクールについての情報提供・案内があった。

(2) J-DESC コアスクール 古地磁気コース 2018

本分科会の 石川 尚人 会員、臼井 洋一 会員、金松 敏也 会員、山本 裕二 会員ほか 1 名の研究者が講師を務める形で、2018 年 8 月 28 日~30 日に高知大学海洋コア総合研究センターにおいて「J-DESC コアスクール 古地磁気コース 2018」を開催した。J-DESC とは、Japan Drilling Earth Science Consortium (日本地球掘削科学コンソーシアム) の略称であり、コアスクールを含めて日本の地球掘削科学の推進のため様々な活動を行っている。国内から 11 名の若手研究者(学生・大学院生・博士研究員)が参加し、半日間(初日)のレクチャーの受講と丸 1 日(2 日目)の海洋コア試料の分析実習を通じて、古地磁気学・岩石磁気学に関する理解を深めた。実施したレクチャーは「パススルー型超伝導磁力計システム」「磁性鉱物決定に関する概論」「低温-高温磁気特性解析: 種類同定」「常温での磁気パラメータ: 量・粒径パラメータ、保磁力解析」の 5 項目である。分析実習では、海洋研究開発機構が管理する、「みらい」航海で回収された海洋コア試料を利用した。最終日(3 日目)には、受講者による分析結果のプレゼンが行われ、講師陣からの講評と全員参加の議論が行われた。

(3) 夏の学校

第50回 SGEPPS分科会「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」夏の学校を下記の要領で開催した。
日程: 2018年9月10日(月)~12日(水)
会場: 茨城県北茨城市 公共の宿マウントあかね JR常磐線磯原駅から内陸側に7km、標高325mに位置する「マウントあかね」からは太平洋を一望でき、涼しく静かな環境で「夏の学校」を開催することができた。二日目には、会田信行氏による招待講演「没後60年 松山基範先生に関する新発見資料について」および、近年発見された松山基範先生直筆の原稿などの展示が行われた。夜はバーベキューによる懇親会、三日目は田切美智雄茨城大名誉教授による「日本最古の地層」巡検が行われた。参加者は16名と少なかったが、その分濃密な議論できたと感じて頂けたなら幸いです。



波動分科会報告

松清修一、成行泰裕、松田昇也、
笠原禎也

○第378回生存圏シンポジウム

「実験室宇宙・天体プラズマ物理学に関する研究集会」

共催: 日本学術会議 URSI-H 小委員会

日程: 2018年8月20-21日

場所: 九州大学筑紫キャンパス

世話人: 松清修一(九大)、笠原禎也(金沢大)、大村善治(京大)

近年世界的に、高強度レーザーを用いた実験室宇宙物理学をはじめとする、実験室プラズマと宇宙・天体プラズマ分野での研究協力が急速に進んできている状況を踏まえ、本研究集会では、実験室宇宙・天体プラズマ物理学の現状と将来性について、複数の学会から研究者を広く集めて議論し

た。口頭講演は招待講演（40分講演）9件と一般講演（20分講演）9件、ポスター講演が6件であった。講演テーマは、磁気リコネクション、無衝突衝撃波、プラズマ波動、粒子加速、相対論的プラズマなど多岐にわたり、理論・シミュレーション、衛星観測、室内実験とさまざまな手法を用いた最先端の研究に関する講演がなされ、積極的な議論が展開された。なお、本研究集会は日本学術会議 URSI 分科会プラズマ波動（URSI-H）小委員会との共催として行われた。参加者数は2日間でのべ62名（1日目が33名、2日目が29名）であった。

研究会の詳細な報告は京大生存圏研究所のホームページ

(<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/events/symposium-0378/>) に掲載されている。

○平成30年度 ISEE 研究集会 ISEE symposium
"Recent progress in heliospheric physics by direct measurements of unexplored space plasmas"

合同開催：平成30年度 ISEE 研究集会「太陽圏・宇宙線関連の共同研究成果報告会」、「太陽地球環境と宇宙線モジュレーション」

日時：2019年2月25-28日

場所：名古屋大学東山キャンパス

世話人：Yasuhiro Nariyuki (Toyama University), Shuichi Matsukiyo (Kyushu University), Chihiro Kato, Kazuoki Munakata (Shinshu University), Yutaka Matsubara, Munetoshi Tokumaru (ISEE, Nagoya University)

本研究集会は、太陽圏物理学の最新動向について議論する場を提供することを目的として開催された。本件研究集会は名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会の ISEE シンポジウムとして開催され、国内外から多数の研究者の参加があった。ここ数年と同様に、本研究集会も波動分科会との共催の形でスタートしたが、ISEE シンポジウムでの採択となり、会の規模を勘案して SGEPS 本体との共催をいただく形となった。会の詳細は宇宙地球環境研究所のホームページ

(http://www.isee.nagoya-u.ac.jp/meeting-report/1st_isee_sympo.html) で報告されている。なお、本シンポジウムの開催にあたっては公益財団法人宇宙科学振興会から支援を受けた。

○平成30年度 ISEE 研究集会

「あらせ衛星の電場・プラズマ波動観測データを用いた解析ワークショップ」

主催：名古屋大学 宇宙地球環境研究所、JAXA 宇宙科学研究所、ERG サイエンスセンター

共催：SGEPSS 内部磁気圏分科会、SGEPSS 波動分科会、日本学術会議 URSI-H 小委員会

日時：2019年3月5-6日

場所：名古屋大学宇宙地球環境研究所 研究所共同館 II 3F ホール

世話人：松田昇也（ISAS/JAXA）、三好由純（名大 ISEE）、篠原育（ISAS/JAXA）

あらせ衛星は、高機能な搭載装置によるその場観測だけにとどまらず、ジオスペースを飛翔する他の科学衛星（Van Allen probes, MMS, Geotail など）との同時多点観測や、地上に設置されたオーロラ全天カメラや VLF アンテナ・誘導磁力計との連携観測を通して物理過程の時間/空間変化を分離し、現象が宇宙空間を伝搬していく様子や地上へと伝わる様子を解明することに貢献している。本研究集会は、あらせ衛星に搭載された機器の中でも、特に「プラズマ波動・電場観測器（PWE）」に着目し、最新の観測データを用いた成果共有の場を提供することを目的として開催した。二日間に及ぶ開催期間に、国内外14の研究機関から、59の研究者・学生を受け入れ、一般公演11件、招待講演8件、チュートリアル講演1件の計20件の科学成果発表があった。二日目午後には、ERG サイエンスセンターとの協力で「IDL/SPEDAS によるデータ解析講習会」を実施し、学部生・大学院生を含む多くの参加者が、IDL/SPEDAS による「あらせ」の電場・プラズマ波動観測データの解析に取り組んだ。研究会の資料等は ERG サイエンスセンターのホームページ (<https://ergsc.isee.nagoya-u.ac.jp>) に掲載されている。

波動分科会の活動情報は

(<https://sites.google.com/site/sgepsshadou>) にて公開している。分科会活動に興味のある方は幹事まで気軽にご連絡頂きたい。

「若手アウトリーチ活動 STEPLE」平成 30 年度活動報告

高見康介

若手アウトリーチ活動 STEPLE (すてっぷる) とは、「Space, Terrestrial and Planetary Lectures」の頭文字をとったもので、「手に届く宇宙☆地球科学レクチャー」を合言葉に活動しています。

本活動は、「もっと若手が積極的にアウトリーチ活動に関与し、学会のアウトリーチ活動を活性化させたい」という想いから、2010 年にスタートした【大学院生を含む若手学会員有志による出前授業】の活動です。学会アウトリーチ部会に所属しており、これまでも大学院生などの若手自らが母校や科学館などへの出前授業や科学イベントでの出展を計画・実施してきました。過去に実施した出前授業はこちら (http://sgepss.org/steple/demae_general/demae_past/) をご覧ください。

ここでは平成 30 年度の STEPLE の活動を報告いたします。

●「作って・見て・測って知る、地球と宇宙の『波』のふしぎ」

日時：2018 年 8 月 10 日

場所：国立女性教育会館（埼玉県）

講演時間：9:00-15:15

参加人数：7 名（女子中高生）

国立女性教育会館主催「女子中高生夏の学校 2018」のプログラムの 1 つの実験・実習とブース展示で参加しました。4 名（内 1 名が STEPLE メンバー）の学会員が講演者・チューターとして参加し、ストローとゴムひもによるウェーブマシンの作成とそれを用いた実験を実施しました。ブース展示では、あかつき、あらせ、みお、MAVEN の人工衛星の紹介や火星の 3D 地形の展示を行いました。詳細な報告は以下に掲載されておりますので、ご覧ください。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-26/>

●「惑星の不思議に迫る！」

日時：2018 年 8 月 21 日

場所：村田町中央公民館（宮城県）

講演時間：10:00-11:50

参加人数：25 名（小学生 19 名、保護者 6 名）

宮城県村田町で行っている天体観測講座の 2018 年度第一回目として、小学生を対象に地球・惑星の観測手法について講演を行ってきました。4 名（内 2 名が STEPLE メンバー）の学会員が講演者・チューターとして参加し、地球と惑星の距離感を掴んでもらい、とてつもなく遠方にある惑星のことをどうやって知ることかということをテーマに講演をしました。村田町での講演は初めての機会でしたが、最後の質問の時間では多くの子供達から活発に質問をいただき、宇宙・惑星について大変興味を持ってもらえたようでした。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-27/>

●「Skype 講演」

日時：2018 年 8 月 26 日

講演時間：15:00-16:30

参加人数：33 名（高校生）

八千代高校の教員で SGEPPS 学会員でもある佐々木悠朝さんからの依頼で、天文部の合宿の企画の一部として Skype による講演を行いました。2 名（内 1 名が STEPLE メンバー）の学会員が講演者として参加し、惑星の研究手法（観測、シミュレーション）の説明とそれらを用いてどんな研究がされているかを紹介しました。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-28/>

●「電波をキャッチ！ラジオを作って電波星を探そう」

日時：2018 年 9 月 9 日

場所：角田市スペースタワー・コスモハウス（宮城県）

講演時間：10:30-15:30

参加人数：49 名

角田市スペースタワー・コスモハウスで開催された第 6 回はやぶさまつりに参加しました。7 名（内 2 名が STEPLE メンバー）の学会員が講演者・チューターとして参加し、ラジオ工作と CD と紙コップを使った分光器工作を実施しました。ラジオ工作では箱に導線を巻きつけてアンテナを作り、基板に抵抗やコンデンサを差し込んでラジオを作成し、電波を出している惑星を探す体験をしても

りました。分光器工作では紙コップをマジックで黒く塗り CD を差し込んだ分光器を作成してもらい、様々な光を分光し光について学んでもらいました。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-29/>

また、上記の 4 件以外にも秋学会時のアウトリーチイベントの運営側として参加しましたことも合わせてご報告いたします。

第 27 回衛星設計コンテストのお知らせ

本学会を含め 9 つの学会・機関が共同で主催している衛星設計コンテストの募集が今年度も開始されました。スケジュールは下記の通りとなっております。

- ・4月1日～5月15日17時：参加登録受付
- ・7月8日12時：応募作品提出期限
- ・7月中旬～8月中旬：第一次審査（書類審査）
- ・8月下旬頃：第一次審査結果の通知
- ・11月9日：最終審査会（発表形式審査）

なお、本年度の最終審査会は、アスティとくしま（徳島県徳島市）において、第63回宇宙科学技術連合講演会に引き続いての開催予定となっております。詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。<http://www.satcon.jp/>

（実行委員：大村善治、行松彰、企画委員：田所裕康、審査委員：町田忍）

助成公募

2019年度前期（2019年8月末締め切り）助成公募のご案内 公益財団法人宇宙科学振興会

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホーム

ページ：<http://www.spss.or.jp>に掲載しています。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール（admin@spss.or.jp）で申請下さい。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

(1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学（地上観測を除く）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（2019年4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（2019年4月2日で63歳以上かつ定年退職した者）で、国際学会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。

●助成金額・件数：一件あたり10～30万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2019年8月31日：2019年10月から2020年3月の期間に開催初日が予定される国際学会の参加者対象（海外で開催される国際学会に限ります）

(2) 国際学会開催の支援

●支援対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（地上観測を除く）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。

●助成金額・件数：一件あたり30～50万円程度、年間3～5件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2019年8月31日：2019年10月から2020年3月の期間に開催初日が予定される国際学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局
<http://www.spss.or.jp>

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

Email: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月末日
学会特別表彰	会長	2月末日
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	12月末日
学生発表賞 (オーロラメダル)	推薦なし/問い合わせは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月、7月、10月、1月中旬
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
国際学術研究集会	運営委員会	1月

SGEPSS Calendar

19-05-26~30	JpGU2019, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会 (幕張メッセ, 東京ベイ幕張ホール)
19-06-10~14	VarSITI Closing Symposium (Sofia, Bulgaria)
19-06-15~21	32nd International Symposium on Space Technology and Science (福井)
19-07-08~18	The 27th IUGG General Assembly (Montréal, Québec, Canada)
19-07-28~08/02	AOGS2019 16th Annual Meeting (Singapore)
19-10-23~27	第146回 SGEPS 総会および講演会 (熊本)

地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)

会長 大村善治 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
TEL:0774-38-3811 FAX:0774-38-3600 E-mail: omura@rish.kyoto-u.ac.jp

総務 海老原祐輔 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所
E-mail: ebihara@rish.kyoto-u.ac.jp

広報 阿部修司(会報担当) 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744
九州大学 国際宇宙天気科学・教育センター
TEL:092-802-6240 FAX:092-802-6240 E-mail: abeshu@icswse.kyushu-u.ac.jp

吉村令慧(会報担当) 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 防災研究所
TEL:0774-38-4225 FAX:0774-38-4190 E-mail: ryokei@eqh.dpri.kyoto-u.ac.jp

山本衛(会報担当) 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所

運営委員会(事務局) 〒650-0034 神戸市中央区京町83番地 三宮センチュリービル 3 階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgeps@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

(有)テラテクニカ(2口)

〒 208-0022
東京都武蔵村山市榎3丁目25番地1
tel. 042-516-9762
fax. 042-516-9763
URL <http://www.tierra.co.jp/>

三菱重工(株)(2口)

防衛・宇宙セグメント
〒 485-8561
愛知県小牧市東田中1200
tel. 0568-79-2113
URL <http://www.mhi.co.jp>

(有)テラパブ

〒 158-0083
東京都世田谷区奥沢5-27-5-804
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

クローバテック(株)

〒 180-0006
東京都武蔵野市中町 3-27-26
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

富士通(株)

〒 261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通(株)幕張システムラボラトリ
tel. 043-299-3246
fax. 043-299-3011
URL <http://jp.fujitsu.com/>

明星電気(株)宇宙防衛事業部

〒 372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町 2223
tel. 0270-32-1113
fax. 0270-32-0988
URL <http://www.meisei.co.jp/>

カクタス・コミュニケーションズ(株)

〒 101-0061
東京都千代田区三崎町2-4-1
TUG-ビル 4F
tel. 03-6261-2290
fax. 03-4496-4557
URL <https://www.editage.jp/>

日鉄鉱コンサルタント(株)

〒 108-0014
東京都港区芝 4 丁目 2-3 NMF 芝ビル 3F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

次ページへ

賛助会員リスト

Exelis VIS(株)

東京オフィス

〒113-0033

東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル 3F

tel. 03-6801-6147 / fax. 03-6801-6148

大阪オフィス

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1-1-23

コウダイ肥後橋ビル 5F

tel. 06-6441-0019 / fax. 06-6441-0020

Email: sales_jp@exelisvis.co.jp

URL <http://www.exelisvis.com/>

シュプリンガー・ジャパン(株)

〒105-6005

東京都港区虎ノ門4-3-1

城山トラストタワー5階

tel. 03-4533-8263(地球科学分野・直通)

fax. 03-4533-8081

URL <http://www.springer.com/>

論文翻訳ユレイタス

〒101-0021

東京都千代田区外神田 2-14-10

第2電波ビル 402A

tel. 03-3525-8001

fax. 03-3525-8002

URL <https://www.ulatus.jp/>

総合電磁気計測テクノロジー

地球科学、宇宙科学、資源科学の発展に
 貢献するべく、最先端の技術を取り入れ、
 高度な電磁気計測装置の開発に
 日々取り組んでいます。



- 磁力計
 - フラックスゲート磁力計
 - プロトン磁力計
 - オーバーハウザー磁力計
 - ポタシウム磁力計
 - インダクション磁力計

- 地下電磁探査関連
 - TDEM測定器(送受信器)
 - 比抵抗測定器

- 海洋関連
 - 海底電位磁力計
 - 曳航式プロトン磁力計
 - 海底電磁探査装置

- 航空宇宙関連
 - 航空機用磁力計
 - 小型衛星 地磁気姿勢計
 - 太陽センサ
 - 磁気トルカ

- 磁気試験関連
 - スピナー磁力計
 - 磁気モーメント計測システム
 - 磁気シールド

- 遠隔監視システム関連
 - 無線LAN
 - 衛星携帯データ転送システム
 - 太陽電池システム

地球電磁気測定器メーカー 有限会社テラテクニカ

〒208-0022東京都武蔵村山市榎 3-25-1 TEL042-516-9762 FAX042-516-9763 <http://www.tierra.co.jp/>

※カナダGEM Systems社 日本代理店

この星に、たしかな未来を

— OUR TECHNOLOGIES, YOUR TOMORROW —

私たち三菱重工は、次の世代の暮らしと、そこにある幸福を想い、人々に感動を与えるような技術と、ものづくりへの情熱によって、たしかな未来を提供していくことを目指します。そのために私たちは、これまで培ってきた技術を磨くとともに、新たな発想で様々な技術を融合させるなど、さらなる価値提供を追求し、地球的な視野で人類の課題の解決と夢の実現に取り組みます。



三菱重工業株式会社 www.mhi.co.jp

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5

Tel 03-6716-3111

 **三菱重工**

この星に、たしかな未来を

出版案内

On Line Publishing & Data Base Service

 TERRAPUB

Online Monograph

Open Access

Monographs on Environment, Earth and Planets (MEEP)

<http://www.terrapub.co.jp/onlinemonographs/mEEP>



無用の用と60年

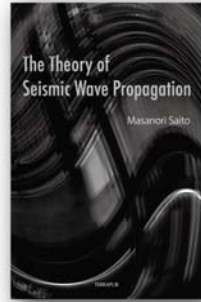
小嶋 稔 著

2,700 円 + 税

発売日：2016 年 11 月

B5 判，上製，62 頁

ISBN: 978-4-88704-168-4



The Theory of Seismic Wave Propagation

Masanori Saito

税込 25,000 円

発売日：2016 年 6 月

Hard cover, 474+x pp.

ISBN: 978-4-88704-167-7

上記以外の書籍につきましてはホームページをご覧ください。 <http://www.terrapub.co.jp/books/>

TERRAPUB 〒 158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-27-5-804

URL: <http://www.terrapub.co.jp/books/>

【お問い合わせ】 Tel: 03-3718-7500 Fax: 03-3718-4406 E-mail: sales@terrapub.co.jp



地球電磁気学研究・地球惑星圏科学をサポートする、

高性能磁気測定機器を日本のお客様へご案内させていただきます。

海底電位差計用
銀-塩化銀電極
EL-1

【クローバテック製品】



Applied Physics
Systems

フラックスゲート
磁力計

超伝導磁力計



2G Enterprises

地球電磁気学研究と共に クローバテック株式会社

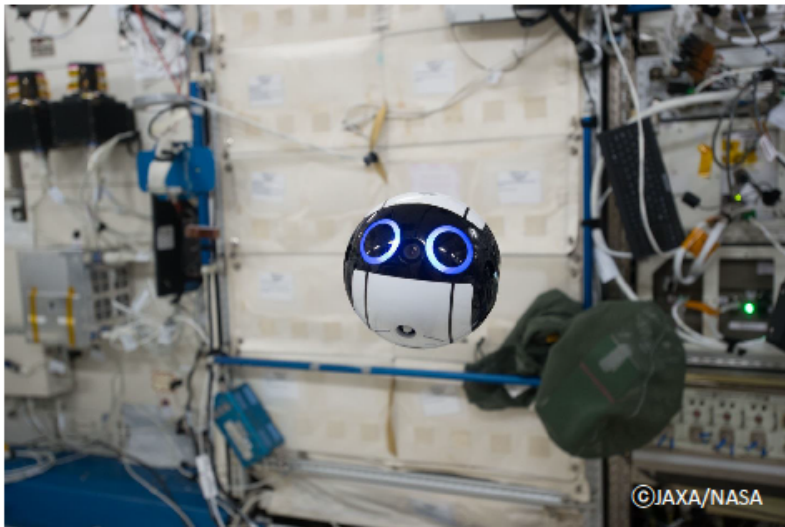
<http://www.clovertech.co.jp>

TEL0422-37-2477 FAX0422-37-2478

水中から宇宙まで

—MEISEIは世界で唯一の総合環境観測システムメーカーです—

私たちは、独自のSensing & Communication技術により
革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。



©JAXA/NASA

明星電気が開発に携わったInt-Ball: イントボール (JEM自律移動型船内カメラ)、構体は、3Dプリンタで複雑な形状を実現しています。なお、筑波宇宙センターからの遠隔操作により、自律的に移動して静止画と動画の撮影機能があります。

弊社は日本の宇宙開発創成期から参画し、現在までに3,000個を超える宇宙搭載機器を宇宙に送り出しています。「測る技術」と「伝える技術」をコア技術に、国内外における宇宙開発の発展に貢献しています。

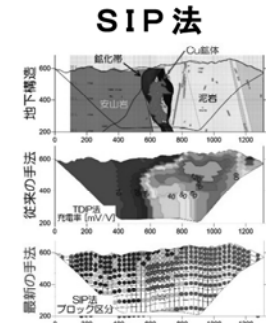
宇宙防衛事業部 営業部
TEL : 03-6204-8252

MAIL : aerospace@meisei.co.jp
www.meisei.co.jp

明星電気株式会社
東京都江東区豊洲三丁目1番1号 豊洲IHIビル10階



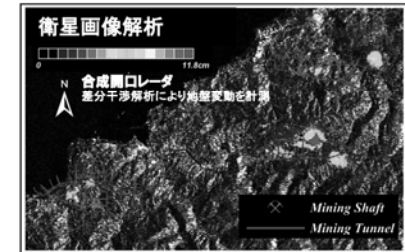
MT法 現場から解析まで長年のノウハウ
MT法電磁探査は、自然の電磁場信号を用いて行なう比抵抗探査手法です。他の比抵抗探査手法よりも探査深度が深く、地下数十kmまで探査が可能です。このため、地殻構造調査や地熱構造調査に多くの実績があります。また、測定周波数の高いAMT (Audio Frequency MT) 法探査を用いることにより、地下1km程度までの詳細な探査も可能で、トンネル掘削前の土地地質調査や断層調査への実績があります。測定システムは可搬性に優れ、騒音振動はありません。



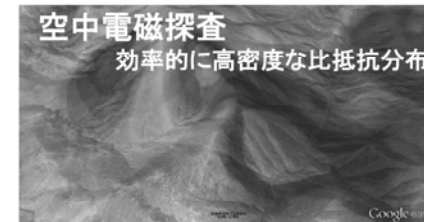
SIP法は、地下の周波数特性を調べる電気探査手法です。通常のTDP法よりノイズ耐性が高く、得られるパラメータも多いため、次世代の電気探査法として注目を集めています。含有物に依存する周波数特性を測定することで、今まで以上に詳細に岩種を区別することが可能になります。



ジオレーダはミリ波あるいはマイクロ波帯の電波を照射し、火山や地滑り斜面、鉱山切羽などで反射した成分を受信します。受信記録に差分干渉解析を適用することで、観測ターゲットの微小変位を常時モニタリングすることができます。レーダアンテナは水平及び垂直方向に回転する機構を備えていますので、面的なデータ集録が可能となります。



人工衛星に搭載された光学センサーやレーダセンサーは、数m程度の高い空間分解能で、数十～数百km四方の広範囲の地表情報を記録し、画像化します。リモートセンシングでは、衛星画像を解析することにより、地球上のあらゆる地域の情報を遠隔的に収集することが可能で、人工衛星が定期的に地球を周回しますので、地表状況の定常監視に応用できます。



空中物理探査は、固定翼機やヘリコプターを用いて行う物理探査手法です。空中から調査を行うため、地表からアクセスが困難な地区の情報を容易に得ることができ、1日に数百kmにおよぶデータを取得することが可能です。測定項目には、極場強度、重力、放射能強度および電磁場強度があり、お客様のニーズに合わせた測定項目をご提案いたします。

日鉄鉱コンサルタント株式会社

ホームページ: <http://www.nmconsults.co.jp/>
E-mail: geophy@nmconsults.co.jp (物理探査部)
東京都港区芝4-2-3 NMF芝ビル 3F Tel:03-6414-2766 Fax:03-6414-2772

エディテージの英文校正・学術翻訳サービス

5領域20の専門チームが1,200以上の専門分野をカバー創業14年 56万稿以上の豊富な校正実績

ed/tage
by CACTUS



英文校正・論文校閲サービス

ジャーナル投稿前の英語論文を国際出版レベルの英語に仕上げるアカデミック英文校正・英文添削サービス。専門分野の博士号・修士号または国際認定BELS取得校正者が高品質、低価格且つ業界最高レベルの納品スピードで原稿を出版に適した状態に校正します。

プレミアム英文校正プラス



論文の論理校正まで踏み込んだパラグラフ毎に校正。365日無料の再校正サービスと査読コメント対策で投稿プロセスまでカバー。

料金(税抜) 15円~/単語

プレミアム英文校正



論文の論理構成にまで踏み込んでパラグラフごとに校正。365日間無料再校正つきで論文の原稿修正に何れも対応するワンランク上の校正サービス。

料金(税抜) 11円~/単語

スタンダード英文校正



当日納品可。原稿の文法、英語構文、語彙選択など英語面を徹底的にチェックするサービス。初回ご注文時に+2円/単語で365日無料再校正(1回)が適用。

料金(税抜) 5円~/単語

エディテージ



ed/tage
by CACTUS

www.editage.jp

エディテージはカクタス・コミュニケーションズのサービスブランドです。

カクタス・コミュニケーションズ株式会社
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-1ビル 4F

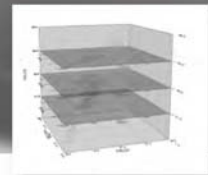
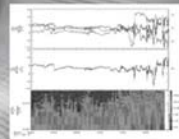
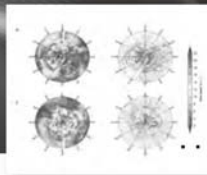
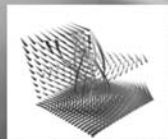
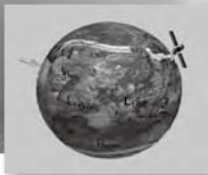
お問合せ:03-6868-3348 | submissions@editage.com



IDL

Discover What's In Your Data.

電磁圏・プラズマ研究分野でのスタンダードソフトウェア



IDLは、コロラド大学大気宇宙物理学研究所出身のDr. David Sternにより、より効率的にデータ処理から可視化までを、クロスプラットフォームOS上で実行出来るように研究者視点から開発されております。

現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の皆様はIDLをTHEMIS衛星データ処理(TDAS)やSuperDARNデータ処理などで多くご利用されていると思います。最新のIDLでは対話形式だけではなく、開発環境やプログラミング自体も大幅に改良され、表示やフォントも綺麗で使い易くなっております。【最新版IDL無償評価版お問合せください】

HARRIS[®]
TECHNOLOGY TO CONNECT,
INFORM AND PROTECT[™]

Exelis VIS 株式会社

■本社 / 東京オフィス

〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル3F

TEL: 03-6801-6147 / FAX: 03-6801-6148

■大阪オフィス

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-1-23 コウダイ肥後橋ビル5F

TEL: 06-6441-0019 / FAX: 06-6441-0020

URL > <http://www.exelisvis.co.jp/> MAIL > sales_jp@exelisvis.co.jp

Springer eBook 地球科学・天文学関連コンテンツ

研究にも、教育にも最適なイーブック・コレクション

- 分野別、出版年別にパッケージ化した買い切り商品
- 広範な領域を網羅
- 利用価値の高いレファレンスや、ブックシリーズ、テキスト、モノグラフを含む幅広いコレクション
- 一冊まるごと、章ごとでもダウンロード可能
- 同時アクセス無制限、プリントアウト可能で教材にも最適。学生の教材費を軽減。
- 時、場所、デバイスを選ばず利用でき、移動の多い多忙な研究者に最適

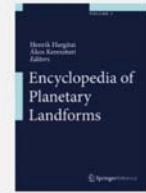
分野	累計出版点数	2017年予定出版点数
地球科学・環境科学	5,700点	390点
物理学・天文学	10,000点	430点

ご所属の機関で使えるeBookをご存じですか？

利用可能コンテンツ、タイトルリスト、お見積りなどご希望の方はお問合せください。

シュプリンガー・ネイチャー インスティテューショナル・マーケティング

• Tel: 03-4533-8091 • Fax: 03-4533-8081 • Email: jpmarket@springernature.com



springer.com

Part of **SPRINGER NATURE**



学術論文の翻訳なら、翻訳ユレイタスへ

お客様満足度**99.45%**

論文翻訳ユレイタスは、研究論文に特化した日英・英日翻訳サービスを提供します。論文専門の翻訳チームが、研究成果の世界への発信をサポートいたします。

ユレイタスの選ばれる理由


ボリューム割引
最大40%

- 分野の専門家が翻訳**
1117の専門分野の中から、原稿の内容ともっとも合致する翻訳者を選出。
- 修士・博士号を持つ翻訳者**
高い専門知識を有する、平均経験年数10年以上のスペシャリストが2000人以上在籍。
- 回数無制限の翻訳修正**
何度でも訳文の手直しを行う修正保証制度「あんしん保証」。(日英翻訳)
- 年中無休で営業**
土曜や日曜、祝日もご注文をいただくことが可能。

NEW



ご利用のたびにポイントがたまり、たまったポイントで無料サービスが受けられる
研究者のためのリワーズクラブがあります。

論文翻訳・学術翻訳ユレイタス:  www.ulatus.jp

 request@ulatus.com

 電話受付: 月~金・日 10:00~20:00 土 12:30~21:30
03-5050-5373